資料 5

平成２２年度『認知症地域支援体制構築等推進事業』中間報告

（紀宝町）

平成２２年7月２９日

≪平成２２年度事業計画≫

（1）紀宝町の概要

○平成１８年１月１０日に旧紀宝町と旧鵜殿村が町村合併

○総面積は７９．６６k㎡、その約８０％は山林

○紀伊半島の南東部に位置し、三重県の南玄関として、熊野川を隔てて和歌山県新宮市と県域を越えた連携・交流がさかん

○総合相談における困難ケースの多くが認知症

○２１年度からの第２次紀宝町高齢者保健福祉計画において認知症対策について計画を盛り込み事業の開始

総　人　口	１２，３２２人	※1
高齢者人口	３，４１０人	
高齢化率	２７．６％	
６５歳以上独居世帯	９８９世帯	
７５歳以上夫婦世帯 （65 歳以上夫婦世帯）	２７２世帯 （６９３世帯）	
６５歳以上のみの世帯	１，７１５世帯	
要介護認定者数	６５５人	※2
要支援要介護出現率	１８．６％	
要支援者数	１８１人	
予防給付実績	１３５人（内委託１８人）	
特定高齢者候補者数	５７７人	※3
特定高齢者数	５８人	

※1 平成 22 年４月１日住基　　※2 平成 22 年３月末紀南広域連合

※3 平成 21 年度健康づくり推進課

（2）コーディネーターの設置

コーディネーターは、地域包括支援センターの社会福祉士の資格を有する主任介護支援専門員が兼務して行う。

（3）地域資源マップの作成方針

○２１年度に作成した「紀宝町高齢者安心マップ」及び、副冊子として「紀宝

町版よくわかる介護サービス事業所」をもとに、商工会と連携した買い物情報や認知症に関する地域資源、物忘れ相談プログラムによる早期発見、医療機関への早期受診、広域的に利用可能な入所施設等の項目を追加
○認知症介護者家族の方にも参加してもらい作成委員会を予定

（4）地域支援体制推進事業の実施方針
○地域と一体となったさまざまな認知症対策の推進→地域のニーズ、課題の把握→町づくりへの発展
○市民活動・ボランティアセンターを始め社会福祉協議会との連携・協働
○認知症に関する相談と個別支援

○認知症ケア等のサポートについて
① センター方式基礎研修と実践研修の開催
◇事業所職員を対象に 町内事業所から１人以上の参加者を募集
◇各事業所内で中心的にセンター方式を推進し、継続的に包括支援センターと連携
◇関係者間のケアネットワーク作りの支援

② 事業所向け研修の開催
認知症の基礎から症状に応じた支援等について継続学習

③ 認知症サポーター養成講座の開催
◇地域住民の認知症に対する正しい知識の普及
地区いきいきサロン・老人クラブ・女性の会・郵便局・JA 等
→地区への出前講座・商工会・町内介護保険事業所・自治会等
◇キッズサポーター養成の検討

④ 認知症を理解し地域で支えるための講演会の開催
認知症サポーターや民生委員、介護スタッフ等も含めた広く町民を対象に地域でできる自主的な支援活動の意識づけを目的に開催予定

⑤ 認知症介護者家族の支援
◇認知症介護者サロンを毎月１回開催
◇６・９・１２・３月の年４回は、認知症の人と家族の会三重県支部の協力による「つどい・交流会」の開催
◇介護者リフレッシュ事業とミニ学習会を兼ねて「熊野川体感・川舟下り」

⑥ 認知症に関わるボランティア活動の支援

◇認知症の家族と２１年度に養成講座を修了された生活・介護支援サポーターのボランティア活動のつなぎ役

◇認知症の人と家族への介護保険外サービスの１つとしての定着を図る

◇当面は、地域包括支援センターが事務局を担い、活動の自主運営への支援を行う。

⑦ 見守り・支援サポーター養成

２１年度に引き続き、連続講座を開催し、ボランティア支援ができる人材養成を行う。

⑧ 認知症の実態把握について

◇地区民生委員との地区懇談において独居高齢者、７５歳以上夫婦世帯等の情報共有と共に認知症についての情報共有

◇町内居宅事業所と連携したアンケートや聴き取りによる実態調査

○徘徊ＳＯＳネットワークの構築

年４回開催の町地域包括ケア会議と広域で開催される紀南地域ケアネットワーク会議（警察署、消防署、郵便事業会社、郵便局会社、保健福祉事務所等）と連動しながら、老人クラブ、自主防災組織、自治会等の参加を呼びかけ、町内におけるネットワークの構築について話し合い、本格的な取り組みができるよう検討。

○その他

① 物忘れ相談プログラムを活用した認知症予防教室の開催

モデル地区を選定して、認知症予防教室を開催し日常生活の中での認知症予防の習慣化の支援と地域での自主活動をめざす。

② 定期的なコア会議の開催

福祉課長、高齢者担当、包括３専門職をコアメンバーに、中長期的な見通しをもって、先進地視察をはじめ効果的な事業内容の検討と評価を積み上げていく。

≪平成２２年度事業経過報告≫

○認知症ケア等のサポートについて

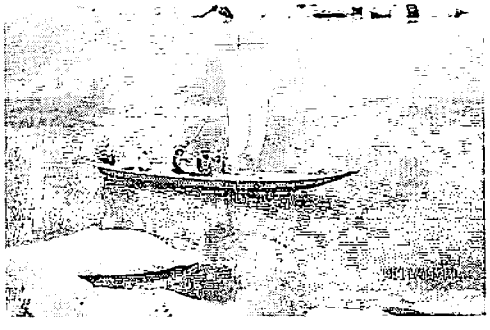
① 事業所職員を対象としたセンター方式基礎研修の開催

５月１９日・６月１６日の２回で基礎研修を行いました。町内各介護保険事業所から１～４名参加していただき、２３名が修了しました。

⑤ 認知症介護者家族の支援

◎ 介護者のリフレッシュ「熊野川体感・川舟下り」とミニ学習会の開催

５月１３日（木）に日頃の介護疲れをリフレッシュとして、三反帆という川舟で熊野川を体感・熊野古道を少し散策・地産食材の昼食を堪能し、認知症の人と家族の会三重県支部代表泉さんと一緒に、認知症について考える場を共有しました。



◎ 介護者のつどい・交流会の開催

認知症の人と家族の会三重県支部との協賛で、年４回６月・９月・１２月・３月実施する予定ですが、６月７日に第１回目を実施しました。初回はミニ講演会を実施し、民生委員・介護支援専門員・サービス事業所の方にも参加を呼びかけて「つどい・交流会」の周知を図り、介護者の方が参加しやすい場づくりに歩み出しました。

◎ 介護者サロン

毎月１回第２木曜日に実施し、介護者同士の情報交換の場・リフレッシュできる場の提供を行ってきました。希望者には、送迎や本人も参加して安心して過ごしていただけるよう体制を準備しました。

⑥ 認知症に関わるボランティア活動の支援

昨年生活・介護支援サポーター養成講座を修了し、賛同された２２名でボランティアグループ「てまりの会」を発足しました。「てまりの会」は、認知症の人や介護者の支援（話相手や見守り等を行う）を行う為、その活動が円滑に行えるよう事務局としてサポートしていくことにしています。

◎ 認知症予防教室の運営サポーターとして、５月より活動を開始。

◎ 認知症の人や介護者への支援として、７月より活動を開始。

個別のニーズとして　1)散歩の支援（週２回）

2)昼食を一緒に作る支援（週１回）

の希望があがっています。

⑦ 見守り・支援サポーター養成講座の開催

７月より、５回コースで養成講座を開始しました。修了された方には、てまりの会への加入を呼びかけ、ボランティアの層を厚くし、認知症の人や介護者の支援体制を整備していく予定としています。

○その他

① モデル地区における認知症予防教室の開催

物忘れ相談プログラム（タッチパネル式 PC）を用い簡易認知症スクリーニングを含めた予防教室を開催し、高齢者自らが認知症予防の実践を積極的に取り組み、教室終了後は自主活動として地域で習慣的に継続していただくことにより認知症の早期発見と早期予防の対策を効果的に普及、推進していくことを目的に、５月～９月初旬の毎週１回、16回コースで始めています。

スタッフは、包括支援センターと健康づくり推進課と協力して、ボランティアグループ「てまりの会」のメンバーも運営サポーターとして、認知症予防プログラムを一緒に学習していただいています。

② 定期的なコア会議の開催

５月27日（木）第１回開催

≪課題≫

○地域における認知症の正しい理解のために、効果的で計画的な「認知症サポーター養成講座」の開催が必要であるが、予防給付をはじめ、日々の相談業務の対応に時間がとられている人員不足状態の改善が必要と思われます。

○今回の中間報告により計画の進捗状況と見直し内容も把握できたので、コア会議の開催と、認知症の人と家族のニーズの把握を的確に行っていきたいと思います。

○認知症講演会には多くの町民の参加がありますが、認知症予防教室の参加者

が予想に反して少なく、このことは認知症への関心は非常に高いが、自分のこととして自ら予防の実践に取り組もうとするまでには至っていないことがわかりました。また、モデル地区においては老人クラブ活動が非常に活発に行われていることもわかり、一般高齢者から特定高齢者、要支援認定者等段階に応じて参加しやすい内容や運営方法を地域を交えて検討をしていきたいと考えています。